

山田学区まちづくりプラン

ダイジェスト

【令和2年3月策定】

●まちづくりプランとは

■人口減少や高齢化が進行する将来においても持続可能なまちづくりを目指し、草津市では平成30年10月に3つの計画を策定されました。

①草津市版地域再生計画

主に市街化調整区域を対象に、生活・交通拠点の形成等を検討し、既存地域における生活利便性の持続や、地域資源の活用による振興を促す計画

②草津市立地適正化計画

都市機能をコンパクトかつ効率的に集約し充実させることを目的とする計画

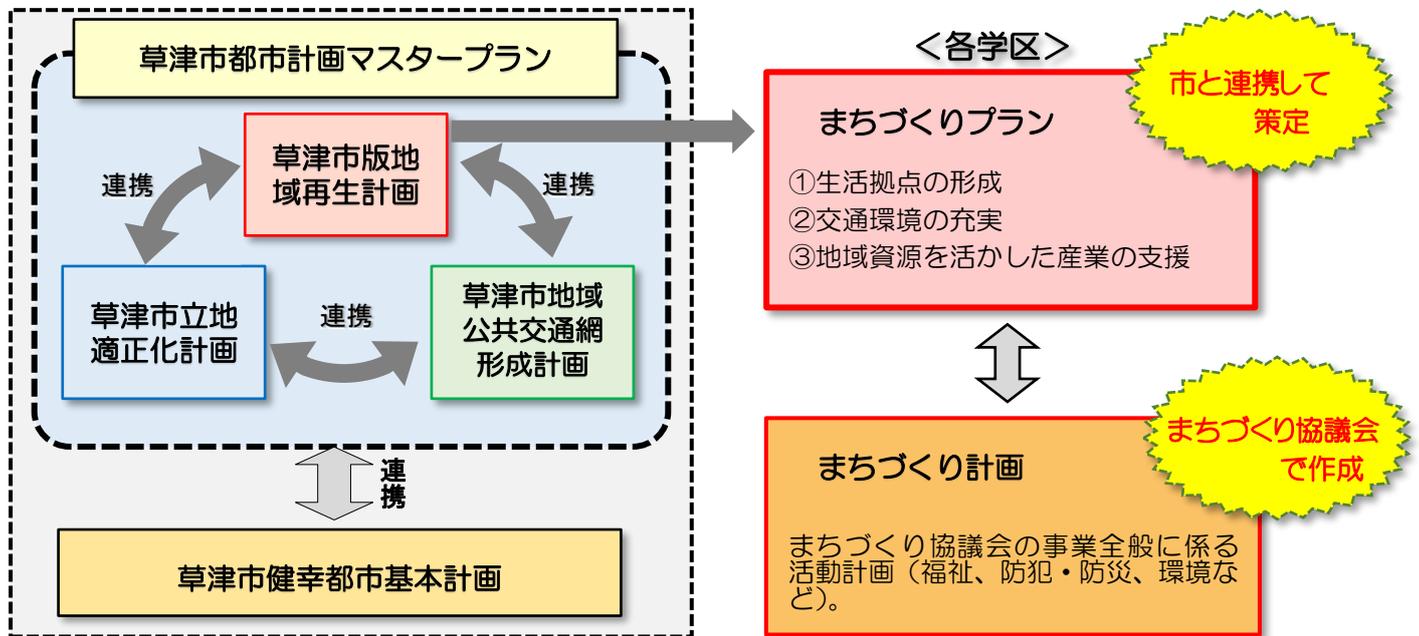
③草津市公共交通網形成計画

各拠点(市街化調整区域も含む)を結ぶ公共交通ネットワークの構築を目指す計画



■この草津市版地域再生計画等に則り、山田学区の将来ビジョンの具現化に向けて、具体的に取り組む施策などを取りまとめた実行計画です。

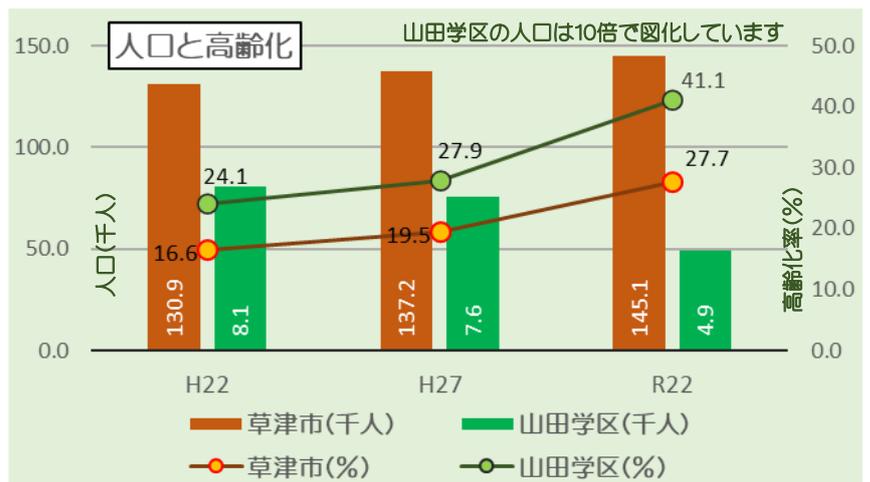
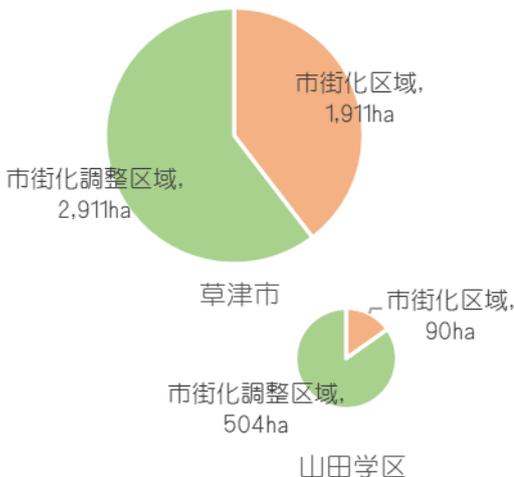
■20年先を目指し、まちづくりプランは実効性の高い計画とするために、短期(4~5年を目安)計画とし、進捗管理や見直しなども行いながら施策の推進を図ります。



●山田学区の面積・人口の状況

●山田学区の東部は市街化区域(15%)ですが、その他は市街化調整区域で農村田園地帯です。

●人口は、市全体では令和22年まで増加傾向ですが、山田学区は既に人口減少が進んでおり、令和22年には5千人を割ると予測されます。高齢化も急速に進み、令和22年には40%を超えることが予測されます。



●まちづくりプランの3つの基本方針 → 20年先を見据えた将来ビジョン → 具体的な施策

■基本方針 I 生活拠点の形成

生活サービス機能が不足するため、地域の生活利便性向上と地域コミュニティの維持を支える生活拠点の形成を目指す。



《将来ビジョン》

- 学区の中心に位置する区域に生活拠点を形成
- 生活拠点内への商業、医療施設等の誘致やアクセスの確保

施策①	生活サービス施設の誘導 山田学区の東側のエリアには商業施設が立地しているが、その他のエリアについては、商業施設が全く立地していない状況にある。この課題を解決するため、市街化調整区域における地区計画制度を活用し、地域の利用に合致した生活を支える施設等を誘導し、生活利便性の向上を図る。
施策②	まちづくりセンターの建替え 老朽化している山田学区まちづくりセンターの建替えが予定されていることから、人口減少や高齢化社会を見据えた地域住民の生活拠点となり、かつ、憩える場所としての利活用を考慮した整備を図る。
施策③	山田学区の持続可能なまちづくりおよび生活拠点の付加機能等の検討 山田学区が今後の人口減少、少子・高齢化社会においても持続可能なまちであり続けられるよう、学区の生活拠点として必要となる機能や消防団詰所や交番等の集約、防災防犯機能の付加を検討する。また、大学やJA草津市と連携し、地元農産物の地産地消の仕組み作り、あるいはコミュニティビジネス等の地域が主体となる取組みを実施し、持続可能な活動となるよう検討する。

■基本方針 II 交通環境の充実

基幹的公共交通やまめバス等の補完公共交通の充実を図り、区域内や区域とまちなかを結ぶ利便性の高い公共交通を目指す。また、公共交通の利用がしやすくなる環境の整備を目指す。



《将来ビジョン》

- バス、自転車等でのアクセス利便性を高める交通拠点の形成
- 生活者のニーズに応じた基幹的・補完公共交通の充実(路線の再編等)
- 歩行者の安全性向上

施策④	生活交通の基盤整備および利便性向上 バス停留所に駐輪場や休憩所を設けることや、生活拠点への公共交通のターミナル機能(交通拠点)の環境整備を進める。また、山田学区内の移動や“まちなか”への移動において、公共交通ネットワークを構築することで、利便性の向上を図る。
施策⑤	歩行者・自転車の安全安心事業(ユニバーサルデザインの推進) 山田学区の住民が安全で安心して生活が送れるようにするため、山田学区の基幹道路を歩行者や自転車等が安心して通行できるよう整備を進める。

■基本方針 III 地域資源を活かした産業の支援

山田学区内に存在する様々な地域資源を活かし、実効性の高い地域振興を目指す。



《将来ビジョン》

- 地域資源(観光、農水産業)を組み合わせで地域活力向上を推進する。

施策⑥	農作物の高付加価値化等による農業の振興 ハウスを活用した軟弱野菜や草津メロンなどの高付加価値化の推進、ブランド力の維持・向上、既存施設との連携を図るとともに、循環型農業システム構築を目指す。
施策⑦	北山田漁港のリノベーション 漁港での漁業体験等の着地型観光など地域資源を活かした魅力的な空間づくりを行い、交流人口の増加を目指し地域活性化を図るため、Park-PP制度※ を活用し北山田漁港や周辺の湖岸緑地の活用を図る。 ※ 都市公園における民間資金を活用した新たな整備・管理手法
施策⑧	草津川跡地公園の利活用 令和元年11月にピワイチがナショナルサイクルルートに指定され、今後サイクリング人気が高まることが予想されていることや、区間1の自転車歩行者道が整備されることから、これまでの草津川跡地公園の利用者に加え、サイクリングを楽しむ人達に区間2「ai彩ひろば」を訪れていただくような仕組み作りを行うなど、更なる地域の賑わいの創出を図る。

●施策メニューのイメージマップ

3つの基本方針に基づく施策メニュー①～⑧を地図におとした地域再生のイメージです。



※地図上の記号等の説明

学区界	鉄道	生活拠点
行政界	バス停	交通拠点
主要道路	市街化区域	地域資源

●生活拠点の構想イメージ

このプランで一番に実施すべきことは、『生活拠点の形成』です。

数年後に建替えが予定される「山田まちづくりセンター」は、山田学区の生活拠点の中心として、多様な機能を付加するとともにその周辺には公共的施設の集約が期待されます。

